



「サンタクロースがやってくる？」

今年のアドベントは11月30日に始まり12月24日のクリスマス前夜までとされています。アドベントは救い主「イエスキリストの誕生」を待ち望む時であり、保育園でもアドベントカレンダーなどを製作し、毎日、そのカレンダーをめくりながらクリスマスを迎えるのです。

みどり野のクリスマス会は、少し早めの12月13日（土）に開催されるので、幼児のこどもたちは「クリスマスオラトリオ」（音楽と劇）の練習に邁進中です。その会には例年サンタクロースが来てくれるのですが、今年も来てくれるかどうか園長は知りません。

1948年12月24日、アメリカ空軍は、「北への早期警戒レーダー網」が、「180度に向かう14000フィート（4300m）8匹のトナカイを動力源とする1つの正体不明のそりを検出した」と主張する声明を発表しました。AP通信はこの「報告」についての記事を配信し、人々に伝えました。米軍がクリスマス・イヴにサンタクロースのそりを追跡することについて声明を発表したのでした。

現在でも、「NORADのサンタ追跡のエンブレム」として毎年、サンタクロース追跡が実行されています。



状況：12月1日から12月24日まで使用可能

初回開催：1955年12月24日（69年前）

主催：北アメリカ航空宇宙防衛司令部

電話番号：877-446-6723

ウェブサイト www.noradsanta.org

ウィキデータを編集

サンタクロースが来る目的は、主に人々に夢や喜びを運び、クリスマスの精神を育むことがあります。その背景には、実在した聖人の慈善行為とキリスト教の教えがあったそうです。主な理由は以下の通りです。

1. 喜びと夢を運ぶため

サンタクロースは、クリスマス・イヴに良い子のもとにプレゼントを届け、人々に喜びや初心、夢を育む存在として信じられています。

2. 聖ニコラウスの慈善行為の習慣化

サンタクロースのモデルは、4世紀に小アジア（現在のトルコ）に実在した聖人、聖ニコラウスです。彼は不幸な人々や貧しい子どもたちを助けるために密かに贈り物を配っており、その慈善の精神が習慣として現代のサンタクロースの伝統へと発展しました。

3. キリストの降誕を祝う精神の分かち合い

クリスマスはイエス・キリストの生誕を祝う「降誕祭」であり、神が救い主として人類にギフト（救い）を与えた喜びを分かち合う日でもあります。サンタクロースがプレゼントを配る行為は、この「与える喜び」や「愛」の精神を象徴しています。

つまり、サンタクロースは単にプレゼントを持ってくるだけでなく、プレゼントを通じて他者を思いやる愛の精神や、クリスマスのもたらす希望や喜びを世界中に広めるために来るのであります。

今なお、やまぬ世界中の戦争や貧困、飢餓で苦しむ人、自然災害で困難な生活を強いられている人、孤独でさみしい人、人生に希望を失った方々に、サンタクロースが喜びと夢を運んで欲しいと願っています。

みどり野でもクリスマス会の日に献金を募ります。そうした方々に少しでもお役に立てればと考えています。
ご協力お願いします。



